

訓示

この度、北栄町長に再任いたしました。

今回の選挙は、無投票当選ということとなりましたが、選挙と違って、どれだけの方から信任されたかがわからないことへの不安はありますが、みなさんの期待に応えるべく、北栄町がさらに発展していけるよう取り組んでまいります。そのためには、職員のみなさんと一緒になって、同じベクトルで取り組んでいきたいと思っています。

1期目につきましては、新しい取組や大規模事業を積極的に行い、魅力あるまちづくりの基盤が整備できたと思っています。2期目は、これらを活用し、あるいは安心して生活ができる取り組みを進めてまいりたいと思います。

このため、2期目の大きな目標としては「住みたくなるまち」「住み続けたいくなるまち」づくりを掲げました。

北栄町の高齢化率が現在何%か知っていますか？37%を超えています。2030年には、4割となり、2050年には、生産年齢人口と高齢者の割合が逆転する予測です。少子高齢化が進み、労働人口の減少、社会保障制度の負担増、地域経済の衰退などの問題が生じます。騎馬戦で例えると、以前、3人で騎馬を組み、騎手を支えていましたが、今は2人で、そして10年先には1人で支える、いわゆる肩車状態ということになります。このような状態にならないように仮になったとしても、住民の生活基盤を確保し、引き続き北栄町で生活できるように取り組んでいかなければなりません。

このため、既にこれらを見据えた事業に取り組みを始めている部分もありますが、これらに加え新規にあるいは充実、強化していく必要があります。

一つ目には、都会と地方で生活する「二地域居住」の取り組みを推進し、北栄町に来てもらう、住んでもらうよう働きかけます。

二つ目には、子育て支援の強化として、包括的な相談体制として「こども家庭センター」を整備します。また教育環境の改善と避難所としての機能も充実させるため、小中学校体育館への空調設備を整備します。集まる場・学びの場の確保のため、中央公民館大栄分館の再整備を行います。地域の人が取り組む共助交通を支援し、生活基盤の確保に取り組めます。

三つ目には、地域医療の確保や買い物環境の改善のため、これまであった地区への病院や商店の誘致に取り組めます。地域内経済の活性化のため、宿泊施設の誘致に取り組めます。山陰道北条道路等の整備を契機に企業の誘致に取り組めます。

四つ目には、産業の振興です。農業の担い手確保として、作業の効率化と負担軽減を図るスマート農業の導入支援の拡充を行います。道の駅ほうじょうや新築移転予定の青山剛昌ふるさと館を拠点とした、起業の支援や賑わいの創出に取り組めます。

五つ目には、この度、脱炭素先行地域に選定されました。これを機に、再生可能エネルギーの地産地消を推進し、地域課題の解決、脱炭素社会の実現に取り組めます。

これまで行ってきた施策に加え、これらのことを総合的に取り組むことで、北栄町に「住みたくなる」「住み続けたい」まちを目指したいと思いますので、職員みなさんと一丸となって、取り組んでいくことをお願いし、町長就任にあたっての訓示といたします。

令和7年10月6日

北栄町長 手嶋俊樹